

水稻の病害虫の発生情報について

- コブノメイガの発蛾最盛期予測について -

1 病害関係

① いもち病

7月上旬の天草・三角地域、および7月中旬の球磨地域での調査では、早期水稻におけるの葉いもちの発生は平年並でした。いもち病の発生予測については、調査データのとおり、一部の地域で好適条件が発現しており、それらの地域では、本田での発生が確認されています。

穂いもちについては、現在のところやや少ない発生状況ですので、今後も少発生で経過するものと思われます。7月16日に梅雨明けし、気象の1ヶ月・3ヶ月予報では、気温が平年に比べ並～やや高い状況になると予想されておりますので、普通期水稻での発生はやや少なくなると考えられます。

② 紋枯病

早期では、程度は低いものの紋枯病の発生面積がやや多いように思われます。今後の気温が平年より高い状況で経過する場合には、稲株の茎数が比較的多いような圃場では発生がやや多くなると考えられます。

2 害虫関係

① ウンカ類

予察灯への飛来状況は調査データのとおり、セジロウンカについては、6月の多重飛来に加え、7月に入ってから第一世代の飛び込みも追加される状況が続いています。一方、トビイロウンカについては、平年に比べて飛来時期が遅く、現時点では少発生となっています。

② コブノメイガ

平年並よりやや多い飛来となっています。また、予察灯及び天草農研の追い出し結果から推定して、本年度の起算日を6月10日および7月4日とし、次回の発蛾最盛期を求めたところ、表-1のとおり、6月上旬の飛来については、次回の発蛾最盛期は熊本市で7月15日、本渡市で7月18日、7月上旬の飛来については、熊本市で8月4日、本渡市で8月6日となりました。今後の気温によって2～3日ずれますので、ほ場での追い出し等により、発蛾最盛期を確認して下さい。

早期水稲では、6月上旬の飛来のコブノメイガによる食害が多いところが見られますが、既に出穂期を過ぎていますので、今後の被害はほとんど無いと思います。しかし、付近に普通期の稲がある場合は、早期水稲から産卵のために飛来して来るので注意が必要です。

普通期水稲の7月下旬の被害株率20%を防除のめどとして下さい。